

# 論壇

## 改善へ抜本的改革必要

日本の若者の英語力の低さは、残念ながら世界でも最悪に近い状況にあるようだ。いろいろな国際比較の調査で出ている結果だ。私は海外のいろいろな大学で英語での講演をする機会が多いが、どの国に行っても日本の大学生よりも英語で質問をしてくる学生がはるかに多い。それに対して、日本の大学生のセミナーで英語で議論を始めようとすると、何も喋れないでいる学生が非常に多い。こうした状況は変えなくてはならない。多くの人がそう考えているはずだ。しかし、この状況がな

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

かなか改善されていない。若者の英語力を改善する抜本的な改革が求められる。

これに関して興味深いデータがある。先日の経済財政諮問会議に提出された資料だ。それは中学3年生の段階で英検3級相当以上の能力を持っている子供の割合を都道府県別に比較したものだ。文部

## 日本の若者の英語力

科学省が実施した英語教育実施状況調査に基づいている。

残念ながら、2017年段階で目標とする50%を超えているのは、福井、東京、石川の三つしかない。他の都道府県は全て目標とする50%を下回っている。ちなみに、静岡県は40%を切っており、

上から20位という状況である。このデータがなぜ注目されたのかと言うと、福井県の存在である。

15年には40%台の中ほどだったのが2年後には62・8%となったことだ。20に近い、英語力の大幅な向上が認められる。ちなみに他の都道府県ではこうした顕著な向上は認められない。

## 政策「見える化」で比較

なぜ福井県ではこうした顕著な改善が見られたのか、専門家の詳しい検証が必要だろう。ただすでに指摘されていることは、福井県では英語教育における外部人材の登用、教師の英語力の向上、高校入学試験に英検ランクに応じた加

あるということだ。

私の印象では、高校入試に英検のランクを加点したことが効いたように思える。高校に合格するのに英検で3級や2級を取っておくことが有利になると思えば、より多くの学生が英検に合格するように努力するはずだ。ちなみに、英検の3級と言つのは、面接試験が加わり、話す力が的確に測定されるレベルである。

おり、どの面であつているのか、行政だけでなく、住民も理解することができるとからだ。

こうした比較を可能にすることを、政府は「見える化」と呼ぶ。地域の政策運営をより良いものにするため、徹底的に見える化を進めていく動きとなつている。重要なことは、より多くの住民が自分の地域のおかれている状況を他の地域と比べてみることだ。

静岡県の中学生の英語力がどのくらいなのか、どの程度改善する余地があるのか。こうしたことを普段考える人は少ないだろう。ただ、静岡県と福井県を比べてみると、その違いはあまりにも大きい。やり方を工夫すれば、静岡県の中学生の英語力を大幅にアップすることも可能であるように思える。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。